

2021（令和3）年度 福岡女子大学 外国人留学生選抜

〔 A 日程試験問題 〕

国際教養学科

小論文

【 60 分 】

注意事項

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
- 2 問題は2ページから4ページにあります。問題は全部で**1題**です。
- 3 解答用紙には2ページ目にも解答欄があります。
- 4 試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁および解答用紙の汚れ等に気づいた場合は、手を挙げて監督者に知らせてください。
- 5 試験開始と同時に解答用紙の**受験番号欄に受験番号**を記入してください。

**問題 次の文を読んで、後の問に答えなさい。**

「数字信仰」は私たちの「コミュニケーション」を犠牲にする。私たちの社会で交わされるコミュニケーションはとてつもなく薄っぺらいものとなっていく。

かつてニューヨークに住んでいた私の母から恐ろしい話を聞いたことがある。パーティーで初対面の人たちが出会ったとき、当然「あなたはどんな職業なの？」と聞き合うが、聞き慣れない職種を相手が言ったとき、「それはどんな職業なの？」と聞くかわりに、あるときから「それで、それってどのくらいの年収なの？」と質問し、年収の額を聞いて「ああ、だいたい分かったわ、ありがとう」という会話が目立つようになってきたというのだ。ひとりひとりの職業という「固有の意味」をお互いに知り合うことなく、「年収」という薄っぺらな数字を知ることで会話が終わってしまう、そんな「豊かな」社会がそこにはある。

しかし、そのアメリカのパーティーでの話を私たちも笑えない。この日本社会で通用してきた会話もまた、「どこにお勤めですか」「〇〇商事です」「まあご立派な会社にお勤めで」とか、「どこの学校に行ってるの?」「△△高校です」「ふーん」といった、表面的な会話ではなかったか。会社の名前を聞いたからといって、それ以上のことは分からない。その会社で一体どんな仕事をしているのか。どんなことを生きがいにしているのか。いまどんなことに悩んでいるのか等々、そういった固有の「生きる意味」を聞くことなしには、その人とのコミュニケーションとは言えないのだが、会社の名前を聞くだけでそれ以上のことに興味を持たないようなコミュニケーションのあり方がまかり通ってきたのだ。

それはいま地球上で起こっている問題でもある。世界には様々な文化があり、ひとつひとつは固有の世界観を持っている。またひとつの文化の中でも、ひとりひとりが異なるものの感じ方、考え方を持っている。そうした「多様性」があるからこそ、私たちは他者の世界を理解しながらコミュニケーションを行う必要があるし、それは私たちの「生きる意味」の世界を豊かにしていくものである。

ところがその反面、そうした多様性は、効率性の悪いシステムであると言える。相手の文化的な背景を理解し、「生きる意味」のありかを理解しようとしていては、コミュニケーションの効率は良くない。そこには様々な誤解や齟齬が当然生じてくるし、そこを乗り越えていくには時間がかかるのだ。私のような文化人類学者にとっては、そうした誤解や齟

齟こそがまさに私たちのそれまでの思い込みを破壊し、新たな認識を深めていくいいチャンスとなるが、しかしそういったコミュニケーションのあり方に苛立つ人たちもいる。

世界が多様な文化によって成り立っている非効率性、それを解決するのが「数字信仰」に他ならない。その文化がどうであれ、一万ドルは一万ドルでしょう？ 年収三万ドルのほうが一万ドルよりも望ましいでしょう？ だからどんな文化に属する人でもみんなが数字の大きい方を求めていきますよね？ というわけだ。グローバリズムが依拠しているのは、まさにこの「多様な文化を超える数字信仰」に他ならない。数字は効率的だ。数字は分かりやすい。相手の「生きる意味」だの何だの、面倒くさい話をする必要がない。数字があれば瞬時にコミュニケーションが取れる。ハウマッチ？ とさえ聞いていればいいのだ。

しかし、現在の世界で起きていることは、そうやって〈誰にも通用する「意味」を求める〉あまり、結局のところ〈誰の意味にもなくなる〉、という皮肉な現象である。収入の数字が上がればそれだけで幸せになるという薄っぺらな「生きる意味」では、私たちは実のところ本当に私の人生を生きている実感が得られない。学生は成績の点数さえ上がればそれでいいのだと言われても、私たちは自分の大切なものが置き忘れられていると感じる。どんな国も GDP の数値を上げることが目標だと言われると、私たちの文化的伝統はそんな薄っぺらなものではないと言いたくなる。分かりやすい「数字」で私たちの「生きる意味」が規定されようとするとき、私たちはその分かりやすさに魂を奪われそうになりながら、「そんなはずはないのだ」と自ら葛藤する。その葛藤がいまこの地球上のいたるところで、あるときはテロリズムや戦争となって、あるときは若者の反乱となって、あるときは鬱病や自殺となって、様々な形で現れているのである。

(上田紀行『生きる意味』岩波新書 2005年より)

【注】 <sup>そご</sup>齟齬…くいちがい。 <sup>かつとう</sup>葛藤する…対立する感情のために悩み迷う。

**問1** ニューヨークの「恐ろしい話」に関して、その話のどういうところが、どういう理由で「恐ろしい」といっているのか、「コミュニケーション」という言葉を交えて、わかりやすく説明しなさい。 ※本文をそのまま引用はしないで、自分で考え自分のことばでまとめ直して答えなさい。

**問2** 「この日本社会で通用してきた会話」に関して、なぜ日本では「固有の「生きる意味」」を聞かない会話がまかり通ってきたのか、自分自身で日本文化の伝統的特徴について考えながら、説明しなさい。

**問3** 「多様性」に関して、筆者は二つの面があることを述べている。次の①・②それぞれについて答えなさい。 ※本文をそのまま引用はしないで、自分で考え自分のことばでまとめ直して答えなさい。

- ① 「多様性」がもたらす良い面。
- ② 「多様性」がもたらす悪い面。

**問4** 「〈誰にも通用する「意味」を求める〉あまり、結局のところ〈誰の意味にもならなくなる〉、という皮肉な現象」に関して、次の①・②それぞれについて、答えなさい。 ※本文をそのまま引用はしないで、自分で考え自分のことばでまとめ直して答えなさい。

① 筆者はどのようなことを「皮肉」としてとらえているのか、「〈誰にも通用する「意味」を求める〉とはどのようなことか、そのことがどのようにして「〈誰の意味にもならなくなる〉」ことになってしまうのか、それぞれについて示しながら、筆者の考えをわかりやすく説明しなさい。

② 上の①で記した筆者の考えに対して、あなたはどうか考えるか、次の3つの言葉を必ず用いて、自分の考えを述べなさい。

- ・「数字信仰」
- ・「コミュニケーション」
- ・「生きる意味」